

みちのく森の楽校だより



2018年

1月号



ノウサギの足跡 いろいろな方向へ！

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。

2018年1月17日発行

1月27日(土) 晴れ 雪で遊ぼう！

雪、雪、雪！一面の雪景色です。あちこちが凍り付き、屋根からは大きなつらが下がっています。12月まではあまり雪が降りませんでした。年が明けると違いますね。どさっと降りました！今日は、雪の中、いろいろな遊びをしましたよ！

大きなつらら！

小野分校の屋根から、巨大つらら（氷柱）が下りていましたよ。つららとは、屋根の雪が融けた水が垂れ落ちる時に、寒さにさらされて凍り付いて、上から下へ徐々に大きくなったもの。

一旦、融けかければならないため、長い氷柱となるためには、ただ寒いだけでなく、溶けたり、凍ったりが繰り返されたのです。



子供と背比べ、子供の背より高いです。



雪の中のダイコン掘り！

寒い東北の暮らしの知恵！収穫したダイコンは、土に埋めて冬を越すのです。

ダイコンは寒さに比較的強い作物ですが、霜が降り、葉が枯れるころになっても収穫せずに畑においておくと、土から出ている首の部分が凍って傷み、やがて腐ってしまいます。こうして埋めておくと、春まで保存できます。

ところが！雪が積もって、どこに埋めたかわからなくなってしまいました。記憶をたどり、見当をつけ、やっと出てきました。ああ、よかった！



竹のご飯炊き

切った竹を使ってご飯炊きをしました。飯盒のように使います。



お餅！竹のご飯！

まだ1月なので、お餅をつきました。

竹のご飯は火加減、水加減が難しく、堅すぎでした。失敗です…。



竹のご飯



ずんだ



焼きりんご

雪の中から掘ったダイコンは、ほかほかの風呂吹き大根。里山の手作り味噌で食べました。



お雑煮



ふろふき大根



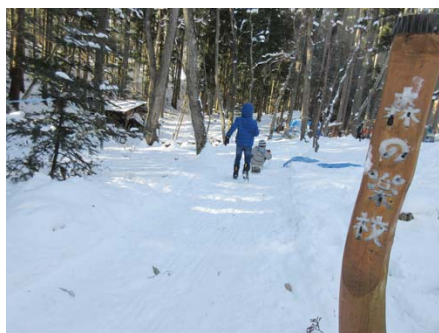
野菜たっぷりのお雑煮

雪で遊ぼう！

さらさらのパウダースノー！さらさらとした粉状の雪。気温の低いときに降ります。水分が少なく、サラサラすぎて、雪だるまも作れません。固まらないのです。

その分、滑るのには最適なのです。

竹と木で作ったソリを使って、森の楽校入口の長いスロープでダウンヒル！その滑りはまるでリュージュのようです。



竹炭！

余った竹を使って、炭を焼きました。竹を割って、缶に入れて、焚火の火で焼きました。竹の筒にさしたら、きれいな飾り炭になりました。

